

# 成果報告書

## I. 研究概要

氏名	姚 艶玲
所属	中国大連外国語大学
招聘回（招聘研究期間）	第8回、2014年4月1日～2014年9月30日
招聘研究テーマ	日本語と中国語の「他動性」に関する認知類型論的研究
研究目的	本研究はこれまでの日本語学研究をベースに、認知言語学と言語類型論の融合研究領域である「認知類型論」(Cognitive Typology) という新しい研究の視点から、日・中対照研究のアプローチを通じて、日本語の「他動性」が反映される事象構造の言語化の仕組みを考察し、外界で起こる「事態の捉え方」と、それが反映される「言語形式」の対応関係を解明しようとするものである。
研究概要：	<p>本研究では日本語の「N-が N-を V-する」構文が成立する意味的要因を分析しながら、この構文に反映される事態解釈（事態把握、捉え方、construal）を明らかにした。さらに日本語の「他動性」に対応する中国語の表現をコーパスから抽出し、考察することによって同一の事象構造を表す日中両言語の表現様式と認知パターンの違いも明らかにした。具体的には認知言語学における「他動性」の概念をふまえて、日本語の「他動性」を表す動詞構文をプロトタイプとその拡張例に分類し、その上で拡張例がどのようなメカニズムに基づいてプロトタイプから拡張されていくのかを他動的構文のカテゴリー化という観点から考察した。日本語の「N-が N-を V-する」構文のスキーマを（参加者の）二者間のコントロールであると抽出することができた。さらに対応する中国語の表現と対照させることによって、次のような言語類型論的な特徴が明らかになった。日本語における他動的事態は、因果連鎖上の始点の役割がより重要視され、様相の異なった始点からの力の推移関係として認識され、主語名詞句の能動性を際立たせる他動詞文構造に言語化されるという仕組みになっているのに対して、中国語における他動的事態は、因果連鎖上の終点である対象の結果状態がより重要視され、それを焦点に据えて起因者が加わるという因果関係として認識されるという仕組みになっている。日本語の「他動性」の文構造は因果連鎖上の始点の作用が前景化されるという主語の「責任重視」意識が鮮明に映し出される構文であり、一方の中国語の「他動性」の構文は因果連鎖上の終点の作用が前景化されるという対象の「結果重視」意識が鮮明に映し出される構文であると思われる。</p>
展望：	<p>日本語における文の「他動性」についての規定は「二者間にあるコントロールの関係」であるというスキーマをより鮮明に探り出すことによって、日本語において「他動性」が反映される文法構造と意味構造との間は日本語話者の事態解釈に動機づけられながら、ダイナミックに対応づけられていることを示すことができる。今後はこのような話者の「主観性」という観点から、日本語の文法現象を解明することが必要であり、今回の招聘研究はこのような研究アプローチによる視点を提供することができたと思われる。</p>